

2003年9月25日

各位

株式会社ビーマップ  
プラネックスコミュニケーションズ株式会社

ビーマップとプラネックスコミュニケーションズ、赤外線通信関連で業務提携

株式会社ビーマップ（以下ビーマップ、本社：東京都北区、代表取締役社長：杉野文則、ニッポン・ニュー・マーケット - 「ヘラクレス」：証券コード4316）と、プラネックスコミュニケーションズ株式会社（以下プラネックス、本社：東京都中央区、代表取締役社長：久保田克昭、JASDAQ：証券コード6784）はこの度、携帯電話機の赤外線通信機能を利用したシステム開発及び関連サービスの提供に関し業務提携いたしました。

ビーマップは、携帯電話や PDA 等の各種モバイル端末での静止画・動画の閲覧を可能にするシステムの開発や、無線 LAN によるコンテンツ配信システムの構築等を行っており、モバイル端末向けサービスのノウハウを培って参りました。一方プラネックスは、最先端ネットワーク機器の企画・開発・販売を行っております。

この業務提携においてビーマップは、赤外線通信の普及に伴う新たなビジネスモデルの企画提案とアプリケーション・サービス用サーバの構築・運用支援を担当します。またプラネックスは、このサービスで使用するネットワーク機器の企画・開発と、ネットワーク構築に関するコンサルティングを担当します。ネットワーク機器として、インテル社のネットワークプロセッサ IXP425 やそのシリーズである IXP420/IXP422 を採用し、赤外線通信インタフェースの他、2つの USB2.0 ポートをもち、ストレージやカメラなど多彩な拡張性を備えたゲートウェイ製品を提供します。

（図1：ビジネススキーム参照）

赤外線通信機能は、昨年NTTドコモより発売された504iシリーズ以降の携帯電話機に採用され、外部機器からiアプリを自動起動させることが可能となりました。

これにより、例えば、赤外線通信機能を備えた会員管理・決済システム等を一般の店舗などに導入し、利用者の嗜好や行動特性に応じた販売情報を携帯電話機に配信したり、その携帯電話機で決済・認証まで行なうことが可能になるなど、様々なサービスへの応用が期待されています。また、利用者の関心に合う商品の詳細情報を携帯電話機に自動配信したり、割引クーポン券やイベントのチケット、待ち受け画面や着メロなどのノベルティを配布する、といった使い方も今後普及するものと予想されます。さらに将来的には、デジタル家電の遠隔操作機能の追加なども視野に入れられています。

（図2：赤外線関連サービスのイメージ参照）

両社は、今回の提携を通じ、ソフトウェア・ハードウェアにおけるそれぞれの強みを相互提供することで提案力・開発力を一層強化し、赤外線通信関連事業を共同で展開してまいります。

以上

< 本件に関するお問合せ先 >

株式会社ビーマップ

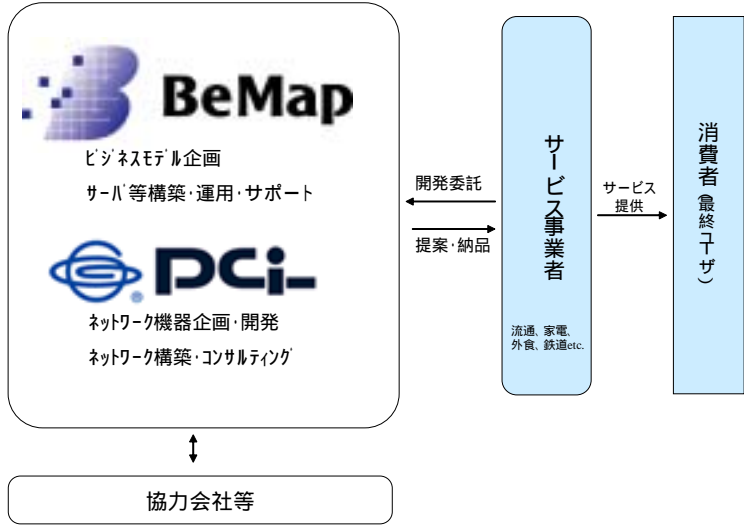
社長室 大谷

- ・ 電話番号:03-3919-3172
- ・ FAX番号:03-3919-4435
- ・ メールアドレス:ootani@bemap.co.jp

プラネックスコミュニケーションズ株式会社

経営企画室 中原

- ・ 電話番号:03-5614-1032
- ・ FAX番号:03- 5614-1013
- ・ メールアドレス:ynakahara@ planex.co.jp



< 図2 赤外線通信関連サービスのイメージ >

